

農相、初めて謝罪

「反省ない」発言修正

口蹄疫問題

赤松広隆農相は25日午前、衆院農林水産委員会、宮崎県の口蹄疫問題に関して「結果としてこれだけ広がったことに対しては、申し訳ない気持ちでいっぱいだった。」と述べ、初めに公式に謝罪した。この発言で「反省する」ということをやっていたと釈明する一方、「この対応で本当に必要がある」と述べ、

問題の終息後に政府の対応を検証する方針を表明した。

谷公一議員（自民）の質問に答えた。宮崎県では東国原英夫知事の非常事態宣言

から1週間となり、政府の現地対策本部によると、発生地点から半径10キロ圏内での殺処分を前提としたワクチン接種は、同意を得られていない農場を除いて、25日中にはほぼ終了する見通し。

衆院農林水産委員会では農水省の山田正彦副大臣は、被害を受けた畜産農家に対する低利子融資について「大臣には少なくとも300億円で枠を広げようと言っている」と述べ、現在100億円の枠の拡大を検討していることを表明した。

この融資は「家畜疾病総合維持資金」で、口蹄疫や鳥インフルエンザなどの家畜伝染病が発生した際、殺処分や搬出制限で打撃を受ける農家が対象。金融機関の融資に対し、国が利子補給する。農水省は口蹄疫発生を受け、4月に融資枠を20億円から100億円に引き上げていたが、被害の拡大から増額が必要だと判断した。

委員会後の衆院本会議でも口蹄疫問題を議論。野党から政府の対応を厳しく問う意見が相次いだ。